

## 発表① 丹南ブロック代表

「大切な言葉」 鯖江市鯖江中学校 2年 中野 凜嶺（なかの りんね）

母に物を取ってもらった時のことです。だまって受け取った私に、「取ってもらって当たり前って思ったらだめだよ。どんなに小さなことでも1回1回、『ありがとう』って口に出して言って、感謝の気持ちを持つんだよ。」と、母は言いました。そう言われて、私ははっとしました。今までたくさんの人にお世話になってきた自分。「ありがとう」という言葉は、とても身近な言葉です。改めて自分の生活を振り返ってみると、何でもやってもらうことが当たり前になっていて、「ありがとう」と言っていなかった自分に気付きました。

いつも私と仲良くしてくれてありがとう。いつもご飯を作ってくれて、習い事の送り迎えをしてくれてありがとう。いつも私のそばにいてくれる友達にも、家族にも言ってなかった「ありがとう」がたくさんありました。

母は私によく言います。「身近な人にこそ感謝をするんだよ。どんな人にもどんな物にも、いつもいてくれて『ありがとう』と思うことが大切だよ。友達とどんなに言い合い、けんかになっても、友達がいなくてけんかができないんだから、まず、友達がいることに感謝するんだよ。」

私にとって、友達がいることは当たり前のことでしたが、母のこの言葉の意味を改めて考えてみた時、友達がいることに感謝して、もっと友達を大切にしないではいけないと気付いたのです。友達だけではなく、家族や私の生活に関わってくれている全ての人たちに、感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」という言葉で、みんなに伝えることが大切なのだと気付きました。

しかし、現実には、はずかしい気持ちが強くなってしまい、「ありがとう」という言葉がなかなか出ませんでした。ある日、席替えをしておとなしめの子の前の席になりました。その子は、いつもお便りをわたすとき、「ありがとう」と言ってくれます。私はこのことをきっかけに、自分も言おうと心に決めました。

次の日いつもと同じようにお便りが配られました。前の席の子が私の方を振り返ったとき、私の心はドキドキしていましたが、できる限り笑顔で、「ありがとう」と言いました。その瞬間、その子はどんな顔をして私を見るのだろうと急に不安になり、きん張しました。でも、その子は笑顔を返してくれました。すると、ほっとして心の中があたたかくなっていきました。その日から私は「ありがとう」という言葉を意識して生活するようになりました。私が消しゴムを落としてしまって友達が拾ってくれた時など、感謝の気持ちを伝える場面がたくさんありました。そのたびに私は、「ありがとう」と、きちんと伝えるようにしました。今では、私の中で「ありがとう」という言葉は、とても大切な言葉になっています。

生まれてから約14年間、家族をはじめ、たくさんの人にお世話になり、苦勞をかけ、支えられてきました。今まで言えなかった「ありがとう」は、数えきれないほどあります。でも、そのことに気付いた今は自信を持って言えます。ありがとうという言葉は何気ない一言かもしれませんが、とても素晴らしい言葉だと私は思います。なぜなら、この言葉を言われた人、言った人は必ず笑顔になれるからです。大切な家族、友達、身近な人たちが、私のそばで笑っていてくれることが、私の幸せでもあります。これからも「ありがとう」という言葉を大切に、みんなに感謝の気持ちを伝え、みんなの笑顔を増やしていきたいです。